

ヤスクニの 闇を知る

～信仰の問題として～

ガイド 辻子 実 さん

(著書『靖国の闇によこそ』、『侵略神社』ほか)

フィールドワーク

1月29日(木) 10時～15時

参加費 1,050円/1人 ※学生無料
(実費：遊就館入館料、保険代)

集合場所 靖国神社第一鳥居(大鳥居)下

交通費 県外からの参加は補助あり

昼食 各自持参

フィールドワーク申込み(締切 1/19、定員 10名程)

<https://forms.gle/pi6XFK9tdE3QAWZF8>

事前学習



当日フィールドワークに参加できない方も参加できます。

1月22日(木) 19時～20時

辻子実さんの解説を聴きながら、スライドで学ぶ会

zoom ミーティング ID : 890 0094 7569
パスコード : 291557



日本バプテスト連盟の「[反ヤスクニ宣言](#)」では次のように宣言されています。

「…わたしたちの教会をとりまく今日の状況は、政治の宗教利用、教育の右傾化、軍備の増強等にみられるように、かつての危険な状況と酷似しているといわねばならない。それゆえにこそ、わたしたちはいま、とくに靖国神社問題を、ほかならぬ信仰の問題として取り組むことを回避できないのである」(1982年第36回年次総会)

いま、この宣言から43年が過ぎましたが、今日の状況は、どうなっているでしょう。日本人ファーストなる差別と排外主義は蔓延しています。また、政府は非常に保守的な新首相のもと、防衛費を大幅に増やす方針を掲げ、武器輸出拡大を視野に安保3文書改定を急いでいるような危険な状況です。そんな時代の中で、戦死者らをたたえ、敬意と感謝をささげるヤスクニは、私たちの信仰の問題として今なおありつづけています。戦死者をたたえ感謝するヤスクニに対する黙認、あるいは無関心は、戦死者たちに対して「もうしませへのん」と反省する姿勢とは大きく異なり、「ありがとうございます。私たちもあなた方と同じようにやります」と同意するのと同じことです。ヤスクニの闇について、現場に足を運び、知る機会となります。学生の方がたも歓迎しています。

「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった。」(ヨハネ 1:5)